



「第149回卒業証書授与式」を挙行了しました。

19日(水)、水沢小学校「第149回卒業証書授与式」を挙行了しました。終始おごそかな、あたたかい雰囲気の中で、式が進行しました。

卒業証書授与では、担任が名前を読み上げると、「はい」とはっきりとした返事をし、一人ひとりがマイクの前で、自分の将来に向けた夢やこれまでのお世話になった方々への感謝の気持ちを語りました。その後壇上上がり卒業証書を受け取りました。「旅立ちの言葉」では、小学校生活の思い出とともに、堂々と卒業に向けた気持ちを語りました。

私から卒業生へ次の言葉を送りました。<校長が話した概要を一部抜粋して編集>

先ほど卒業生22名の皆さんに卒業証書を授与しました。皆さんのしっかりとした態度やはっきりとした返事、自分の夢や感謝の気持ちを語った言葉が、私はとても嬉しく、誇りに感じています。

皆さん一人ひとりに渡した卒業証書には、6年間の皆さんの努力とともに、これまで温かく見守ってくださったご家族や地域の皆様、教え導いてくださった先生方の深い愛情が込められていることを忘れないでください。

卒業にあたって私から一つだけ「はなむけの言葉」をおくります。それは「人とつながることの大切さ」です。

私には、大好きなCMがあります。ラグビーワールドカップが日本で開催された時に話題となったCMです。CMのスタートは、何年か前のあるアフリカの国です。主人公のイスル少年はラグビーが大好きで、友だちいつもラグビーを楽しんでいました。しかし、体格の大きな友だちガヤンには「まだまだだな」と、あしらわれてしまいます。イスル少年は「いつか絶対にガヤンに負けずにトライを決めたい」という思いを抱き、全力疾走します。ラグビーを終え、家に帰ると、井戸から水を汲み、ツボに注ごうとした母親がつかろうとしている姿を目撃します。次の日から、母親の代わりに井戸から水を汲んでくることがイスルの日課となりました。ラグビーの練習に顔を出さなくなったイスルを、ラグビーなかまのガヤンたちも心配しています。そんなある日、落ち込んだ様子で、井戸へ水くみに向かうイスルの前に、ガヤンをはじめとした友だち4人が現れます。そのラグビーなかまの友だちは、イスルの家に着くと水瓶を抱え、水くみの仕事を手伝います。井戸のそばでイスルはうれし涙を流します。

時は流れ、その少年は水道をひく会社に勤めるようになり、水道の通っていない村にきれいな飲み水をいきわたらせるようになります。一方、友だちのガヤンはラグビー選手となり、大きくなったイスルは、試合中倒れたガヤンに向かってきれいなバケツの水をぶっかけ、「まだまだだな」と語りかけます。そんなCMです。

そのCMは、人と人とのつながりの真の姿や誰かのために人が行動することの素晴らしさを教えてくれているようで、今でも私の心に強く響き、その時のシーンが印象に残っています。

同じ時代に生まれ、同じ場所で生きることは、奇跡に近いことなのかもしれません。このCMのように、「人との出会い」がさらに良いものになるよう、中学生になってもそれぞれが自分を磨く努力を続け、なかまを大切にし、互いに力を合わせながら、また、新しい一歩を歩いていってほしいと思います。

小学校に入学し、コロナ禍でさまざまな制限がある中、皆さんは学校生活を送ることを余儀なくされました。また世界では、現在、戦争や紛争により、罪のない人々が国を追われ、他国へ避難したり、命を落としたりするような出来事も起こっています。しかし、このような暗くて苦しい状況はいつまでも続きません。どんな苦難に陥ろうとも努力を惜まず、一所懸命やってさえいれば、皆さんの前にはいつかきっと明るい熱と光が差し、報われる日がやってくると思います。

皆さんの周りには、一緒に苦楽を共にしてきたなかまがいます。温かく成長を見守ってくださった地域の皆様、いつも傍で支えてくれる保護者の皆様がいます。

「人との出会い、ふれあいを大切にし、つながりを大切にすること」、皆さんのこれからの中学校生活に期待を込めて、この言葉を送ります。

卒業式に出席された皆様の温かい拍手に送られて、卒業生はこの水沢小学校を巣立っていきました。

裏面には、四日市市長・四日市市教育委員会からいただきました告辞を掲載します。(文責 北住 昌文)

